

# つながる学び

アカデミック・リンクのこれまでとこれから

## RFIDによる「授業資料ナビ」掲載資料の利用状況調査

「授業資料ナビ」掲載資料を学生は学習に活用しているか、館内利用データを用いて検証する

### 調査の概要

授業資料ナビの掲載資料を配架した「授業資料ナビコーナー」にRFIDシステムを導入し、授業期間中にどれだけ資料が書架から手に取られたか、「回数」と「時間」※を計測。(2013年度前期～2014年度後期) ※手に取られた後、そのまま館外貸出につながった利用は除外

#### 授業資料ナビゲータ

授業を行う教員と、図書館員が協働して作成する授業のためのパスファインダー(情報源リスト)

授業に関連したキーワード、Webサイト、図書、教員からのコメントなどを掲載



#### 授業資料ナビコーナー

ナビ掲載資料は館内のコーナーに授業別に配架

「貸出可」と「館内用」の2冊を用意



RFID(Radio Frequency IDentification)システムによる、利用状況のモニタリング



コーナーの資料にはすべてUHF帯のICタグを貼付

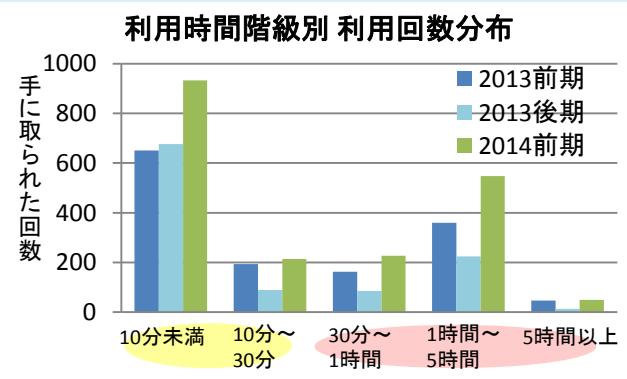
電波のやりとりによりICタグが書架上にあるかどうかを判断し、書架から手に取られた「回数」と「時間」を計測



アンテナシート  
機器、制御システム

### 資料が館内で手に取られた回数・時間 ～「授業資料ナビ」掲載資料はどのように利用されているか～

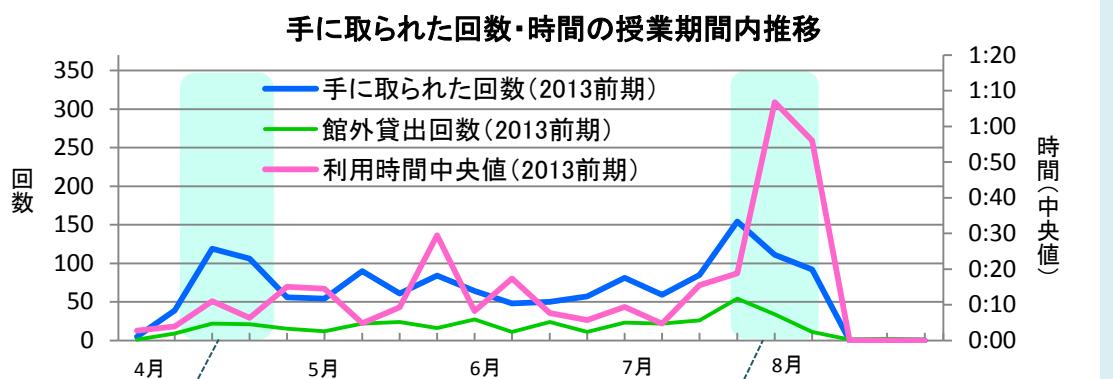
●利用のタイプは大きく分けて2種類



立読み利用

閲覧席で利用

●授業期間内でも、時期によって利用のタイプが異なる



利用回数 多い 利用時間 短い

利用回数 多い 利用時間 長い

学期はじめ(ガイダンス、ナビの紹介)

試験期前～試験期

①ナビ資料が手に取られた回数・時間

②授業カレンダー(教員による任意回答)やシラバスからわかる授業の動態

①と②を検証したところ、相関関係があるようである。

#### ○館内利用を測る必要性

館外貸出のみでは見えない利用  
・禁帯出、貸出に向かない資料  
・特によく使われる資料

利用の「時間」を測定可能

「図書館資料の利用」をより網羅的・客観的に測るためには、館内利用の計測が不可欠

	館外貸出回数						
	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回
0	131	11	5	2	0	0	0
1	67	17	5	5	2	0	1
2	25	12	6	2	3	0	0
3	20	10	3	5	1	0	0
4	12	3	7	1	0	1	0
5	8	6	5	0	2	0	0
6	7	4	2	2	1	0	0
7	8	5	4	3	0	0	1
8	2	3	2	1	1	0	0
9	0	3	4	1	0	1	1
10	0	1	0	4	1	0	0
11	0	2	0	1	0	0	0
12	0	1	0	1	2	1	0
13	0	0	0	0	2	0	0
14	0	1	1	1	1	0	0
15	0	1	0	0	0	1	0
16	0	0	0	1	0	0	0
17	0	0	0	2	0	0	0
18	0	0	0	0	0	1	0
19	0	0	0	0	0	0	1
20	0	0	0	0	0	1	0
22	1	0	0	0	0	0	0
25	1	0	0	0	0	0	0
27	0	0	1	0	0	0	0
33	0	0	1	0	0	0	0

※2013前期 利用回数別タイトル数

#### 調査からわかったこと

(1) 学生は、授業資料ナビコーナーの資料を使って授業に関連する学習をしている。(取り組みの検証)

(2) RFIDによる館内利用の測定は、図書館の利用を調査・評価する際の一指標となる。(手法の検討)

### データの活用 ～教員へのフィードバック～

データ活用の試みの一つとして、教員へのフィードバックを実施。利用統計(館外貸出+館内利用)の送付により、紹介した資料の利用実態を知ることができ、教員から、次回のナビ・次回の授業につながるような感想も得られた。このような情報交換は、協働の意義を互いに確認するためにも重要と考える。



図書館員

利用統計

アンケート

学生が手に取っている様子がわかり、安心

基本的な文献を紹介することには意味があると感じた

(課題以外で)主体的に借りる学生は少ないようで残念



教員

(利用統計を踏まえて)次回は資料の案内のし方や授業を工夫したい

さらに活用されるように授業でもアピール

※2014年度前期 教員アンケートより